

第4章 活動の内容



1. 各エリアでの活動

1-1 石鎚山系

◇ 現状と課題

近年、石鎚山系は登山者の増加に伴い、踏みつけや採取によって希少な高山性植物が減少傾向にあります。今後も登山者の増加が予想され、オーバーユースが深刻な問題となる可能性があります。また、ニホンジカの分布拡大により、植生の変化・環境の劣化が進行している可能性が指摘されています。特に笹ヶ峰上部、寒風山から桑瀬峠の稜線部、瓶ヶ森のササ群落と風衝低木群落、石鎚山北面



＜瓶ヶ森からの石鎚山＞

の高茎草本群落などは大規模なシカ食害が発生すれば、壊滅的な被害を受ける恐れがあります。シラベは個体数が少なくシカ食害に備えて樹幹の防鹿ネットの設置などを検討する必要があります。食害の進行を把握するために情報の収集と定点調査を実施するなど具体的な対策が必要です。

◇ 活動の内容

活動	内容	主体
シカ調査	シカの分布拡大について、現状把握のための調査を行う。	西条市 NGO
希少植物群落の調査	シカ食害の影響を受ける可能性のある植物群落について現状を調査する。	西条市 NGO
防鹿ネット設置活動	ボランティアを募り、防鹿ネットなどを運び、設置する。	西条市 NGO 市民 企業
シカ対策ワークショップ	登山者等を対象にシカに関するワークショップを行い、現状を伝え、情報収集を呼びかける。	西条市 NGO 市民

◇ 対策

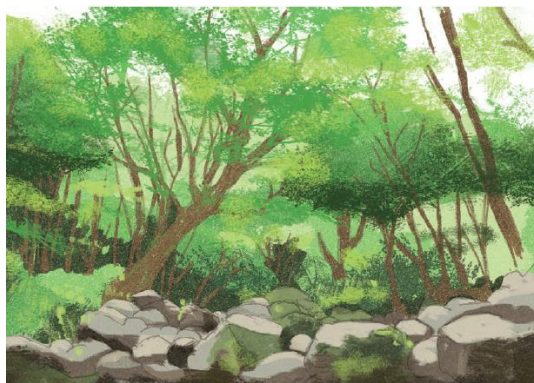
オーバーユースに関しては、現状調査を行いながら、関係機関との情報交換を密に行い、場合によっては、入山制限等の措置も視野に入れながら、検討を行います。（主体：西条市、各関係機関、NGO）

1-2 加茂川・中山川水系

◇ 現状と課題

本市の主要河川である加茂川・中山川は、四国の他地域では既に絶滅してしまったカジカ(中卵型)の四国唯一の生息地となっています。この魚は、アユと同様に、海と川を回遊する生活様式をもっています。産卵は川の中下流域で行いますが、卵から孵化した仔魚は海まで流下し、海で少し大きくなってから川へと遡上します。このように、川と海とを回遊するカジカにとって、水域の連続性はとても重要です。新川水系から渦井川水系までの平野部における水域ネットワークは、カジカが自然に分布域を広げることのできる潜在的な生息域となっています。それにもかかわらず、その地域の川でこの魚が減多に見られないのは、それぞれの川の下流域にある遡上阻害構造物が大きな要因の一つといえます。カジカの絶滅リスクを軽減し、存続を維持していくためには、加茂川・中山川の良い環境を維持するのみならず、周辺河川への生息域の拡大をはかることも重要です。そのためには、遡上阻害要因の排除・改善が不可欠です。さらに、産卵環境の造成、流下仔魚や遡上幼魚の移植による生息域拡大の促進などといった積極的活動も効果的です。カジカのみならず、アユ、サツキマス、ウナギ、ドジョウ、ナマズ、フナなど多くの様々な魚たちが水域間の繋がりに依存しています。このように水域ネットワークの繋がりを保全・再生するための活動は、水生生物全体の多様性を維持するためにも不可欠と考えられます。

また、河川周辺の森林は、溪畔林、河畔林などと呼ばれ、水域と陸域双方の生物多様性や生産性を高める上で重要な場とされています。森林から河川へともたらされる倒流木、落ち葉、陸上昆虫等が、川に生息する水生生物(魚、甲殻類、水生昆虫)の食物や棲み場所として重要な役割を果たしていることはよく知られています。また、川から羽化する水生昆虫が餌となり、鳥やコウモリ、陸上昆虫を養っていることも知られています。このように、河川と森林の多様性や生産性は、相互依存的に維持されています。しかし、現在、本市の森林の多くは放置人工林や竹林となっており、河畔林の生態的機能はかなり劣化した状態にあるといえます。



<河畔林>



<カジカ>

◇ 活動の内容

活動	内容	主体
カジカ調査	カジカの遡上を阻害する構造物に関する調査を行い、その改善やカジカ生息域拡大につながる活動を行う。	西条市 NGO 市民
水源の森整備事業	山間部の溪流沿いの放置林を川から100m程度間伐し、下草や低木の植生を促し、森林の保水力の向上を図る。	西条市
森の健康診断 ワークショップ	市民と一緒に森の健康診断を行い、人工林の現状について知る。	西条市 NGO 市民
社叢林 ワークショップ	社叢林の植生は、その地域の昔の植生を反映している場合が多い。それを知ること で、本来の森の植生について考える。	西条市 NGO 市民
水と親しむ 青空教室	水生生物の観察を通して、加茂川について知る。全国水生生物調査（環境省）に参加し、水生生物から加茂川の水質を判定する。	西条市 NGO 市民
竹林整備	市民参加の竹の伐採活動	西条市 NGO 市民

1-3 湧水池・水路



<湧水池>

◇ 現状と課題

市内の住宅地には、多くの湧水池・水路があり、市民の方々にとって、水辺は身近な憩いの場となっています。これまでも自治会単位で清掃活動等が行われていますが、近年、外来水草が増加しており、問題となっています。市民には、外来種と在来種の見分けが難しく、清掃の際に在来種まで除去されている現状もあります。

身近な水辺の現状について、市民にもっと知ってもらい、より良い水辺環境となるよう活動を推進することが重要です。

◇ 活動の内容

活動	内容	主体
外来種除去活動	自然観察会と外来水草の除去を行う。	西条市 NGO 市民 企業
自然観察会	湧水池を巡りながら、西条の自然・文化に触れる。	西条市 NGO 市民
水路清掃	水路の清掃を行う。	西条市 市民 企業

1-4 ため池

◇ 現状と課題

本市には、多くのため池があり、それらは水生植物、水生昆虫類等の生育・生息環境として重要で、希少性の高い種も多く含まれます。ため池は定期的な改修が行われますが、その改修によって、貴重な生態系が失われる可能性が考えられます。現在のところ、市内のため池の多くは、比較的良い環境が維持されていますが、現状維持のためにも、改修などの際は、事前の保全策が必要な場合があります。

◇ 活動の内容

活動	内容	主体
自然観察会・ワークショップ	ため池周辺で鳥や昆虫、植物の自然観察会やワークショップを行い、市民にため池の豊かな生態系について知ってもらう。	西条市 NGO 市民

◇ 対策

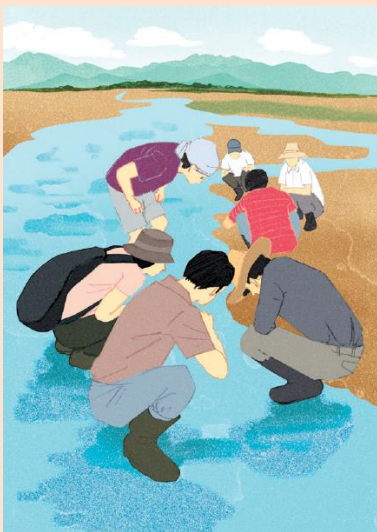
地権者の方々へ理解を求め、改修を行う際には、事前の届け出の義務化等を検討します。(主体:西条市)

1-5 干潟

◇ 現状と課題

埋め立てによりその多くは失われたものの、加茂川河口～中山川河口、新川河口～大明神川河口にかけて広大な干潟が残されています。特に、加茂川河口干潟は、塩生湿地やヨシ原を伴って、多様なベントスの生息場所となっていて、絶滅危惧種も多産します。河口より沖合の干潟は、河原津干潟も含めて、ユムシやナルトアナジャコが多産し、その巣穴に住む多様なベントスの共生関係がみられます。しかし、近年、急速にユムシもアナジャコ類も減少し、共生者の姿を見ることも難しくなりました。また、50 年ほど前には、干潟ではアサリなどの二枚貝がたくさん捕れましたが、現在は、ほとんど捕れなくなっています。これらの原因は分かっておらず、生物の分布調査と環境調査を続け、市民の目でモニタリングを続ける必要があります。

◇ 活動の内容

活動	内容	主体
市民参加型 生きもの調査	市民参加による干潟の生きもの調査 	西条市 NGO 市民
海岸の清掃活動	定期的な海岸の清掃活動	西条市 NGO 市民 企業

2. 教育・学習

◇ 現状と課題

本市は、水源から河口・海までが市内に存在し、西日本最高峰の石鎚山頂の亜寒帯から暖温帯までの自然環境を生み出しています。そのため、その自然環境は素晴らしく多様ですが、市民の認識度は低いと思われます。市民と一緒に地域連携保全活動を推進するうえで、身近な自然について知ってもらうことが、その第一歩です。

市内の小学校で配られる「西条の地理」という副読本はありますが、西条の自然についての副読本はありません。全小学生が西条の自然について、勉強する機会を作ることが必要です。また、世代を問わず、地域の自然について知る機会を増やしていくことも重要です。

◇ 活動の内容

活動	内容	主体
小学生用副読本の作成	西条市の自然について、小学生向けの副読本を作成する。	西条市 NGO
公民館単位での勉強会	西条の自然について公民館単位での勉強会を開催する。	西条市 NGO 市民
西条の自然に関するHPの作成	西条の自然についての発信や情報収集を目的としたHPを作成する。	西条市 NGO
自然観察会・出前講座	西条の身近な自然環境をテーマとした自然観察会や出前講座を開催する。	西条市 NGO



<昆虫観察会>